

外国語指導助手

ハンクス先生、帰国



町では、中学生など多くの町民のみならず、生の英語に触れ、英語の力を培ってもらおうと、平成10年7月より外国語指導助手を受け入れてきました。ブリジット・ハンクスさんは昨年7月から小中学校などで指導を行っていましたが、今年7月に帰国することになり、7月16日、中学校で離任式が行われました。

生徒代表から「楽しい授業でした。また、横越へ来てくださいます」と別れの言葉が述べられ、花束が贈られました。ハンクスさんから「言葉や文化は違っても、気持ちは絶対通じます。間違いを恐れず、勉強を続けてください。みなさんのことは一生忘れません」と涙を流しながら別れのあいさつがありました。ハンクスさんは中学校で英語の授業を行ったほか、小学校での英語クラブ、公民館で一般町民を対象とした英会話教室なども行い、この1年間町民のみならずと広く交流を深めました。なお、アメリカへ帰国後は、小学校で勤務するそうです。

よなごし国際交流協会総会

ハンクス先生、1年間を語る

6月24日、よなごし国際交流協会総会が総合体育館で開催されました。同協会の会員15名が出席し、平成12年度の事業報告、決算、平成13年度の事業計画、予算について審議、了承されました。

続いて、中学校等で英語を教えているALT英語指導助手のハンクス先生が、横越や日本の印象、生活、学校での授業の様子、中学校の先生や生徒たちのことなど、これまで1年間のことについて、「横越の人はみんな優しく、とても心が落ち着きます。生活するには、便利な町です」と、通訳を交えながら、英語でゆっくりと横越町の感想を披露しました。



な優しく、とても心が落ち着きます。生活するには、便利な町です」と、通訳を交えながら、英語でゆっくりと横越町の感想を披露しました。

耳よりな情報
～広域情報ネットワーク～

<巻町>

ガラスのメルヘン美術館

ガラス工芸作家の江副行昭氏、江口智子氏の作品を常設、展示、販売、また、松田尚子氏のガラスメルヘン作品を展示。ガラス細工体験教室もあります。

- ▶開館時間 9月～4月 平日は午前10時～午後5時、土・日・祝日は午後6時まで
- ▶休館日 5月～8月 午前10時～午後6時
- ▶休館日 12月～2月 毎週水曜日
- ▶入館料 大人は300円、中学生以下15名以上の団体は200円 体験教室参加者は無料
- ▶場所・問い合わせ ガラスのメルヘン美術館 巻町角田浜1668 ☎0256-77-2611

エチゴビール

日本で初めて認可を受けた地ビール醸造所。静かな森に囲まれたブルーバブでは、本場ハンガリーから取り寄せた醸造設備をガラス越しに見ながら、できたての地ビールを味わえます。

- ▶営業時間 午前10時～午後7時、ただし、夏期7月20日～8月31日は午後8時まで、冬期12月20日～3月19日は午後6時まで
- ▶定休日 第1・3水曜日、ただし夏期は無休
- ▶場所・問い合わせ エチゴビール 巻町福井3970 ☎0256-72-0640

ふれ愛プラザ

納涼祭 開催

ふれ愛プラザ利用者および地域住民が自然にふれあい、共に楽しめる季節感ある行事です。屋台コーナー、ゲームコーナー、和太鼓演奏、盆踊り大会、BMXショー、お笑い集団N A M A R Aによるステージなど、子どもから大人まで楽しめる盛り沢山の内容です。

- ▼日時 8月19日(日) 午後4時30分～8時30分
- ▼会場 新潟ふれ愛プラザ (亀田駅東口側)

6月資源ゴミ収集実績

空きびん	6.8 t
空き缶	6.6 t
古紙	31.7 t
ペットボトル (拠点回収分)	0.4 t
合計	45.5 t

▼問い合わせ
新潟県障害者交流センター (月曜日休館)
☎ 381-8110
FAX 381-1478

ふる里物語

町史編さんだより 77

現代語訳「横越島旧事記」(4)

一、天和二年(一六八二)、沢海藩領沢海村と新発田藩領横越村で地境論争が起きた(注1)。

一、天和三年、日本廻国中の神明様が横越村に泊まった(注2)。

一、貞享元年(一六八四)、新発田藩郷目付の高山八左衛門が、手代助内とともに横越村を訪れた(注3)。

一、貞享二年、横越村の通琳寺が御堂を建立した。
一、同年二月十一日、「本出籠」と呼ばれる流星が現れ、東南から西の方へ飛んだ(注4)。
一、貞享四年、沢海騒動が起

こり、沢海藩の殿様が領地を召し上げられ、沢海の地を去られた(注5)。

◆解説

この地境争いについての資料は現存せず、詳細は不明である。少なくとも江戸時代後半の絵図では、横越村と沢海村との間には中木津村の土地があつて、両村の土地は接していない。また、「本津邑古老伝在来帳」(北方文化博物館所蔵)によると、同年に小杉村と木津村との間でも何らかの争いがあり、双方で一四

軒が村を追放されている。

<注2>

神明信仰とは伊勢神宮および天照大神に対する信仰で、鎌倉時代から江戸時代にかけて地方で折柄や伊勢参りを案内した御師(伊勢神宮の下級神職)により、庶民に普及した。

現在も町内各地に祀られている神明社の存在から、江戸時代を通じて御師が横越村に来ていたことは確実である。本文の記事も諸国を廻る御師が、たまたま天照大神の分霊を持って横越村に立ち寄ったことを記録したものとと思われるが、信心深い村人にとっては、ビッグニュースであったらう。

<注3>

郷目付は、領内の村々の監視役であった。延宝六年(一六七八)から高山加右衛門が横越組を含む島通り組の代官を担当しているが、天和元年(一六八二)に没しており、高山八左衛門という人物については不詳である。

<注4>

江戸に関連した事柄を編年体で記した「武江年表」によると、貞享二年二月二十二日夜の記事に「流星、東南より西北に至る」とあり、横越村での目撃日と異なるが、同一のものであろう。雷鳴と共に落下したとされるこの流星は、天文学上「火球」と

呼ばれる光度がきわめて明るい流星あるいは隕石とも推定され、当時の江戸中でも話題をさらった。流星は凶兆であった。世界の天文学的記録では、この年、特に大規模な流星群は報告されていない。

<注5>

この年の八月二十五日、沢海藩は養子として迎えた沢海藩四代藩主溝口政親の酒乱の理由をもつて改易(廃絶)された。「大栄寺通夜物語」には、改易直前の沢海城下町において、悪臣左

川佐内の処刑と藩主の幽閉を目的とした沢海藩士による合戦風の大騒動が描かれているが、新発田藩領横越村を含む近隣の村の記録では、特に大騒動したという様子は描かれていない。

(おわび)

広報7月号の現代語訳「横越島旧事記」(3)の本文中、「徳川家康の長男である結城秀康」は「徳川家康の次男である結城秀康」の誤りでした。

俳句 (公衆作品)

句題 百合 更衣

余後の帯少しゆる目に更衣
更衣して久方の句会なり
衣更へて年より若く旅三日
長身の金髪マネキン更衣
なんとなくぶらりと旅に更衣
更衣髪をなおして撮られけり
子の忌日合わせて切るや百合の花
上族蚕の繭造る場所探しおり
更衣母の形見の博多帯
繭干して下請負の機を織る
マネキンの更衣して李を詠い
雨しとど婆わ日延の更衣
老いてなほ心にも張り更衣
山百合の重たき雨にうつむける
冷え症の妻やうやくに更衣
衣更へて女子寮の夜華やげり
衣更い地蔵の衣も呂の衣
更衣へてしなやかな影連れて来し
百合の白さも沈む通夜の儀
繭染めて母が遺したミニ内裏
紅百合や磯波ゆれて透き通る

坪谷十九一
草野青踏子
石井 楽秋
神田 斗子
今井 峰雪
加藤 喜秋
藤崎 春月
伊藤 吉作
小林 竹生
小林千恵子
中川 照月
藤崎 道子
市村横雲子
坪谷 耕雨
坪谷 いわお
佐藤 豊吉
谷井野武士
今井 鴉子
高橋 夫子
今井 天花



貞享4年(1687)の沢海藩改易から64年後の宝暦元年(1751)に写された「大栄寺通夜物語」(沢海 伊藤忠男氏所蔵)には、合戦風の沢海騒動が描かれている。